

ツールドひろしま 安芸高田 実行委員長



安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組む挑戦者たち。彼ら突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

イベントを重ねることで

まちが一つになるのを感じます

有限会社兼光

かねみつ
兼光

しげひろ
茂洋さん

参加者もスタッフも
ご家族の応援に
支えられています



オリジナルグッズ
大会では、毎回オリジナルグッズを制作。これまで手ぬぐいやサコッシュなどが登場しています。

仲間
「育った町が好き」をキーワードに集まった実行委員会のメンバー。熱い想いの持ち主ばかり。

きっかけ
国内で2番目に古い歴史があるBMXコース。開設から成長を共にした大切な場所であり存在。

6町を結ぶコースは人の想いを結んだコース

市内6町を自転車で駆け抜けるサイクリングイベント『ツールドひろしま安芸高田』。15年に第1回が開催され、今年で4回目を迎えました。「安芸高田は、田園や牧草地帯、川沿いの景色、古い町並みなど、多彩なやまなみ景観が楽しめる魅力的な場所。コンパクトに凝縮され起伏に富んでいて、さらに走りやすい。サイクリストにはたまらないコースで評価も高いんです」。第2回目には県内外から300人以上が集まり、大いに盛り上がりました。イベントのきっかけは、23年ぶりの帰郷から3か月した頃、発起人から「安芸高田市でサイクリングイベントをしたい」と誘われた事。小学校5年生からBMXを始め、数々の国際大会にも出場した経歴を持つ兼光さんは「恩恵を受けてきた自転車で地元に戻してできるチャンス」と考え運営に参加。時期尚早さに迷いながら準備していきながら「自分たちのまちも元気にしたい！」と将来に危機感を持つ熱いメンバーが増えていきました。この大会は、地域を大切に思う人と人、まちとまちを結び6町を駆け抜けることに大きな意味があります。今年は豪雨のため中止となりましたが、早くも第5回が19年9月8日(日)に決定しています。「6町が協力し合い広域で連携を深めていくのがこれからの市としてとても大切なこと。それがさらに大きな連携につながることを、未来のために信じて続けていきたい」と話してくれました。

国民年金保険料は 社会保険料控除の対象になります

納付した国民年金保険料は、社会保険料控除としてその年の課税所得から控除され、税額が軽減されます。

控除対象

- ・平成30年1月から12月までに納められた保険料の全額(過去の年度分や追納された保険料も含む)
- ・配偶者やご家族(お子様など)の負担すべき国民年金保険料を納めている場合、その保険料

平成30年1月1日から10月1日までの間に国民年金保険料を納付された方には、11月上旬に日本年金機構から「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」が送られますので、申告書等の提出の際には必ずこの証明書が領収書を添付してください。(平成30年10月2日から12月31日までの間に、今年はじめて国民年金保険料を納められた方へは、翌年の2月上旬に送られます)

11月は「ねんきん月間」

国民のみならず公的年金制度を身近に感じていただき、公的年金制度に対する理解を深めていただくことを目的としています。

11月30日は「年金の日」

国民一人ひとりに「ねんきんネット」等を活用して自身の年金記録や公的年金の受給見込み額を確認していただき、老後の生活設計に思いを巡らしていただくことを目的としています。

☎三次年金事務所 ☎0824-62-3107

Vol.45 少しの勇気を



(文)
県立広島大学
上水流久彦准教授



(イラスト)
ロナルド・シュワート
教授

違う文化から 日本を考える



人権多文化共生推進課
☎お太助フォン 42-5630 ☎47-1206

先日、京都から奈良に行く電車に乗っていました。奈良のずっと手前の踏切で事故が起こり、車掌さんが、「この電車は行き先が変わる可能性がある」と繰り返し日本語で言っていました。そして、宇治駅につく直前に「宇治での折り返し運転になる」というアナウンスが。続いて近鉄を使った代替輸送に関する複雑な説明がありました。宇治につくと、バツと降りる日本人。空いた席に座る外国人。あまりに多くの外国人がそのまま乗っている。英語で「この電車は奈良に行かず、京都に折り返す」と伝えました。降りた外国人は駅員にどうすればいいかを尋ねていました。多文化共生を語る私なので当然そうしようとされるかもしれませんが、私

も声をかけようかどうか、ちゅうちよしていました。でも思い切った声をかけました。

7月の豪雨で被害に遭われた方も多いことと思います。フェイスブックでも見ましたが、安芸高田市国際交流協会が外国語またはやさしい日本語で様々な情報を出していました。他の市町でもそうだったと思います。それでも、新聞では広島県内で情報がうまく伝わらず、困った外国籍市民に関する記事が掲載されていました。携帯に入る緊急情報を複数の外国語で流すなど行政や企業がすべきことはまだまだあると思います。同時に日本語のわかる人間が少しの勇気をもって、まわりの外国人にどんな言葉でもいいので声をかける大切さを、改めて宇治駅で痛感しました。